

とりまとめ骨子案の概要

千寿園の避難に関する課題

■避難計画の内容や訓練の内容の適切性

- 土砂災害のリスクを認識し警戒していたものの、洪水による浸水リスクへの認識は薄かった。
- 計画に定められていた避難先は、雨天時の避難に適さない場所、警戒レベル3避難準備・高齢者等避難開始発令時に開所しない場所、洪水による浸水に対して安全が確保できない場所であった。
- 施設利用者を外部の避難先に誘導する訓練までは、実施していなかった。

■避難誘導の体制と避難に必要な設備等

- 事前の予想雨量が多くなかったこともあり、避難誘導に必要な要員の配置などの体制を早期に確立できなかった。
- 浸水被害の発生が切迫した時には、豪雨に伴う交通遮断等により、避難誘導に必要な要員が参集できなかった。
- 階段を使用した施設の上階への避難誘導に労力と時間を要した。

第1回検討会における意見(要旨)

- ・ 非常災害対策計画と避難確保計画をまとめて作成することを推奨。
- ・ 避難計画は施設の個別性を踏まえて作成することが重要。
- ・ 訓練等を通じて避難計画を見直し実態に即した計画にすることが必要。
- ・ 行政等が専門的な観点で避難計画を評価、助言することが必要。
- ・ 避難計画の内容を施設職員等に周知しておくことが必要。
- ・ 業務継続を考慮した避難先の選定が必要。避難先の環境整備が必要。
- ・ 停電時にエレベータが使えないことも考慮が必要。スロープの有効性の確認が必要。避難に有効な設備は行政が助言することを推奨。
- ・ 夜勤体制のみで避難誘導をすることは難しい。
- ・ 計画どおりに対応できない場合の事態認識が必要。近隣企業と応援協定を結ぶことも有効。
- ・ 施設間で避難者を受け入れる協力体制が必要。
- ・ 施設関係者が集まって議論する場をつくることが有効。施設と地方公共団体が平時から情報共有できる関係が重要。
- ・ 施設関係者が自ら判断できるように防災知識の習得が必要。
- ・ 災害リスクの高い場所への施設の新規整備の抑制が必要。

全国の高齢者施設の実態調査(速報版)

- ・ 避難訓練を踏まえて、避難計画を適宜見直す必要があると考えているのは約93%
- ・ 避難先で業務継続が可能と考えているのは約61%
- ・ H29年以降、施設以外の避難先への避難訓練を実施しているのは約24%
- ・ 避難計画に対して市町村からの助言等が必要と考えているのは87%
- ・ 避難先での業務継続に不安があると考えるのは約75%、避難先への誘導に不安があると考えるのは約75% 等

避難の実効性を高める方策(骨子案)

■避難計画や訓練に関する事項

- **災害の種類等に応じた避難計画の作成の徹底**
 - ・ 災害の種類等に応じた適切な避難先の選定等
- **訓練で得られた知見の避難計画への反映**
 - ・ 訓練結果の市町村との共有
 - ・ 避難計画の見直しの促進 等
- **避難計画の共有と理解の促進**
 - ・ 家族等への避難計画の周知
 - ・ タイムラインを踏まえた計画の作成による避難行動の理解促進 等

■施設の設備や体制等に関する事項

- **業務継続が可能な避難先の確保**
 - ・ 施設内での垂直避難のための設備等の設置
 - ・ 業務継続が可能な施設外の避難先の確保
- **避難誘導のための要員の確保**
 - ・ 施設職員以外の協力体制の構築
- **施設内の適切な防災体制の確立**
 - ・ 施設職員への防災知識の普及
- **災害リスクの低い地域への施設の誘導等**
 - ・ 新規施設の災害リスクの低い地域への誘導や垂直避難設備等の装備
 - ・ 避難の実効性が困難な施設の移転検討